

針葉樹樹皮とモミガラを活用したブルーベリーの培地栽培

ブルーベリーを水田転換園等に植え付ける場合、大がかりな土壌改良が必要です。山口県農林総合技術センターでは、土壌改良に要する費用を削減する方法として、安価に入手可能な針葉樹樹皮とモミガラを活用したブルーベリーの栽培技術を確立したので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 本栽培法では、針葉樹樹皮を厚さ 30cm、幅 2 m で敷設し、ピートモスとモミガラの混合培地 40L（容積比 1 : 1）で 1 年間育成した苗木を根鉢ごと定植します（図 1）。
2. 針葉樹樹皮を厚さ 30cm に敷設することで、土耕より生育と収量が優れます（図 2）。定植後、針葉樹樹皮の pH はブルーベリーの生育に適した範囲で推移するため、pH 調整は不要です。
3. 育苗培地としては一般にピートモスが優れるとされていますが、半量をモミガラに替えても同程度の生育が得られます。このことにより、ピートモスの購入コストを半減できます。
4. 図 1 のとおり定植した場合、通常的气象条件下では無灌水でも灌水した区と同等の収量が得られることから、灌水はほぼ不要です。

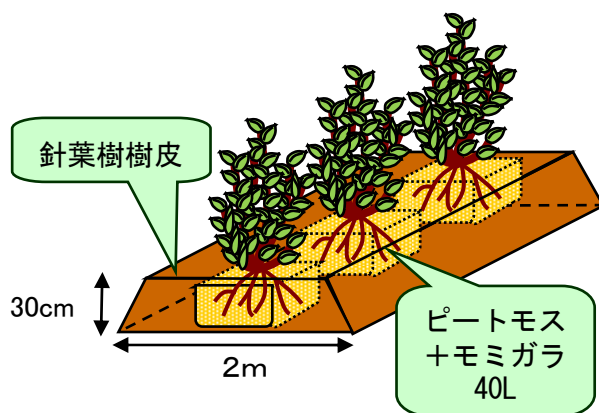


図1 資材の設置方法

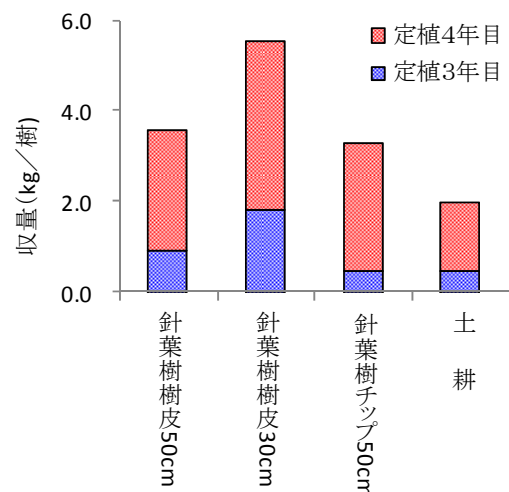


図2 敷設資材の種類および厚さが収量に及ぼす影響

☆ 活用面での留意点

1. 針葉樹樹皮は、製材加工施設等から安価に入手可能です。
2. 育苗培地の量が40Lより少ない場合、あるいは育苗せずに直接ほ場に苗木を定植する場合には、灌水が必要となる可能性があります。
3. 詳細については、山口県農林総合技術センター農業技術部園芸作物研究室にお問い合わせください（電話 083-927-0245、メール nakatani.yukio@pref.yamaguchi.lg.jp）。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹）